

平成20年9月26日

各 位

東洋炭素株式会社

〒530-0001 大阪市北区梅田 3-3-10（梅田ダイビル 10F）

（コード番号：5310 東証一部）

国際熱核融合実験炉（ITER）計画関連向け 「ダイバータ用 C/C コンポジット材」の受注について

東洋炭素株式会社（代表取締役社長 近藤純子）は、このたび独立行政法人日本原子力研究開発機構（理事長 岡崎俊雄、以下「原子力機構」）より、「ダイバータ用 C/C コンポジット材」*1 を受注いたしました。

本案件は、「太陽を地上につくろう」との壮大な構想のもと、未来のエネルギーとして期待される核融合エネルギーの早期実現を目指す「国際熱核融合実験炉（ITER）計画」（以下「ITER 計画」*2）の支援を目的とした、「幅広いアプローチ（BA）」*3 の一環となる「臨界プラズマ試験装置の改造（JT-60SA 計画）」に関するもので、ITER 計画の推進を図るうえで重要な役割を担っております。

このたび受注した製品は、臨界プラズマ装置の炉内機器において、最も高い熱負荷を受け、ダイバータの炉壁として使用されますが、厳しい環境下にも耐え得る当社製品の優れた品質が認められたものです。原子力機構と当社は長年にわたり様々な取り組みを行い、当社製品も様々な分野の重要部材として活用されておりますが、その幅広い実績と、当社独自の技術力が高く評価され今回の受注に至りました。なお、本案件の受注金額は約5億円で、納入期間は2008年末から約3年間の予定です。

当社は、今後も引き続き独自技術を活かした高機能、高品質な製品開発に注力するとともに、積極的な展開を継続することにより、ITER 計画の推進に更なる貢献をしてまいります。

東洋炭素は高機能カーボンの世界的なリーディング・カンパニーとしてさらなる成長を志向しておりますが、特に「環境（Environment）」・「エネルギー（Energy）」・「エレクトロニクス（Electronics）」の「3E」を成長のキーワードとして、独創的でオンリー・ワンの

製品と技術を提供していくことを基本理念としております。今後もこの基本理念に則りつつ、このたびの ITER 計画関連のみならず、地球環境保護、省エネルギーおよびエネルギー革新等に貢献を果たしてまいりたい所存です。

【補足説明】

＊1：C／C コンポジット材

炭素繊維強化炭素複合材料 (Carbon Fiber Reinforced Carbon Composite Material)
炭素を炭素繊維で強化した炭素材料で、炭素の特長である高耐熱性および炭素繊維の特長である軽量、高弾性、高靱性等の優れた性能を引き継いでいる。

＊2：ITER 計画

日本・EU・ロシア・米国・中国・韓国・インドの七極により進められており、究極のエネルギーと言われる核融合エネルギーの平和目的での活用のために、その科学的・技術的実現性を実証し核融合実験炉の実現を目指す、まさに「太陽を地上につくる」大型国際プロジェクト。

＊3：幅広いアプローチ (BA)

日本とEUが ITER 計画と並行して補完的に取り組む共同事業で、ITER 計画の支援や ITER の次のステップである発電用核融合原型炉の開発のための研究開発を行っている。

以 上

本件に関するお問合せ先

東洋炭素株式会社 広報・IR担当 TEL：06-6451-2114
